

～学校・家庭・地域で通じ合う心～

協働通心 協働通心

平成30年度

第7号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

心地よい風に春を感じると、新しい年度が始まる希望や期待が湧いてきます。それは、今年度の成果と課題をしっかりと振り返り、今年度よりステップアップしたいという思いから湧いてくるものだと思います。

先日、学校と地域のかけ橋である“地域コーディネーター”や地域協働合校担当の教職員との総括会議を行い、今年度の取組について振り返りました。その中で、来年度、引き続き大事にしていくことを抜粋します。

①地域コーディネーターの活動は、「学校と地域を結んで、子どもたちの学習を充実させる」だけではない。地域コーディネーターが、連絡調整する中で出会った人とのつながり、ふれあいで得たことを自分だけのものにせず、児童や生徒、教職員へ伝えること、それがその後の学習をさらに充実させることにつながる。

②「児童生徒に教えたい」という地域の方の思いを大事にしつつ、学校のカリキュラムや学年相応の内容、学習時期等を十分に考慮し、児童生徒、地域の方にとってwin-winとなる内容にするために、打合せを充分に行う。同じ単元であっても、毎年子どもたちは変わるため、内容の見直しと子どもたちに伝えたいことは何か等のポイントを共有する。

③地域の子は地域で育てる観点から、未来を担う子どもたちを“可能な時に、可能な内容で”みんなで一緒に育てる。支援に来てくださるボランティアが固定化されずに、幅広い方々に参加していただけるよう、広報くさつやえふえむ草津で、地域協働合校の紹介をしたり、ボランティア（サポーター）の募集を学校発行のたよりに記載し、回覧板に入れていただいたり、各学校での工夫を継続する。

ボランティアに関しては、一度参加された方が、口コミで広め、初めて参加される方を連れて来ていただくケースもありました。また、今年度の取組を話す会議で、「いい先生を知っているよ」と紹介いただいたことがあり、やはり話すことで輪は広がります。このような、人のつながりを大切にしていきたいです。

地域学校協働活動推進員

呼称は
「地域コーディネーター」を
継続して使用します

草津市教育委員会では、平成31年4月から“地域コーディネーター”を、地域学校協働活動推進員として委嘱します。地域学校協働活動推進員には、社会教育法の改正により、法律に位置づけられた存在として、地域協働合校の推進に関わっていただきます。活動は、今までと同じように、子どもたちの学びに地域の方や大人が培ってきた技能や知識、伝統文化を伝授していただけるように連絡調整をしたり、地域の特性、人材等の発掘、情報収集をしたりします。